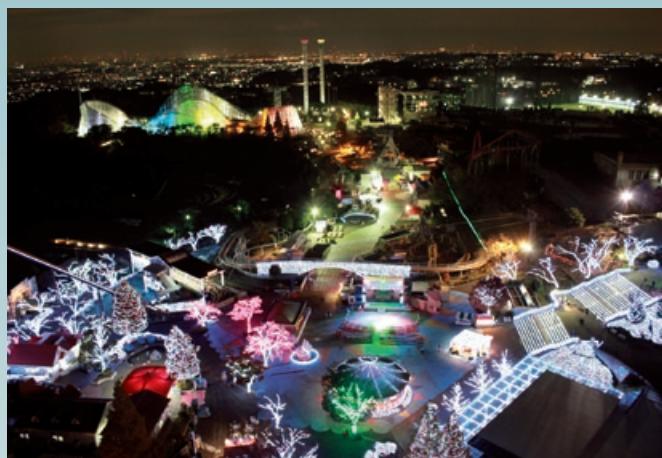


第 88 期 報告書

H23・04・01 ▶ H24・03・31

証券コード9671

株式会社 よみうりランド



株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループ第88期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の事業の概況を取りまとめましたので、ここに本報告書をお届け申し上げます。

平成24年6月

代表取締役社長

関根達雄



営業の概況

01

事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興が進むにつれ緩やかな回復が見られたものの、依然として厳しい状況で推移いたしました。景気の先行きも、欧州の債務危機に端を発した世界経済の減速、円高の長期化といった下振れ懸念などにより不透明な状況となっております。

当社グループの関連する業界におきましても、個人消費は底堅く推移しているものの、緩やかなデフレの影響により厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社は積極的な営業展開により売上確保に努めるとともに、東日本大震災の被災者支援として募金活動や義援金の寄付、また、節電対策などに取り組みました。

遊園地部門の遊園地では、11月より前期に引き続き世界的照明デザイナー石井幹子氏プロデュースによるイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」を開催いたしました。当期は、節電に配慮し消費電力を削減しつつ、LEDを123万球にスケールアップし、開催日数も3月11日までの週末を中心に77日間（前期47日間）に増やし、多くのお客様にご来園いただき好評を博しました。開業から8年を迎えた温浴施設「丘の湯」では、3月に湯休み処の拡張などのリニューアルを実施し、顧客満足度の向上を図りました。また、「丘の湯」に併設する複合施設「グリーンクラブ」におきましても、ベーカリー「ポラリス」の新規出店などを機に「丘の湯プラザ」としてリニューアルオープンいたしました。なお、公営競技部門の川崎競馬場では、12月から「ウインズ川崎」としてJRA（日本中央競馬会）の全レースの場外発売を開始し、多くのファンで賑わいました。

この結果、当連結会計年度における売上高は154億9千9百万円（前期比1.6%増）、営業利益は20億7百万円（同1.5%増）、経常利益は21億6千6百万円（同2.4%増）、当期純利益は、前期に計上した災害による損失の減少等により、12億5千3百万円（同6.6%増）となりました。

対処すべき課題

今後のわが国経済は、東日本大震災の復興需要などにより持ち直しの動きが期待されるものの、長引く円高や電力供給問題などの不安材料があり、景気の先行きについては、依然として不透明な状況で推移するものと予想されます。

当社グループの関連する業界におきましても、雇用や所得環境が低迷する中、個人消費の伸び悩みにより、レジャー支出が抑制される懸念もあり、厳しい経営環境が続くものと思われます。激しい企業間競争の中を生き残るためには、他施設との差別化を図っていくための独自の企画力や顧客満足度の一層の向上に努めていく必要があると思われます。

このような状況の下、公営競技部門では、川崎競馬場におきまして、本年11月にダート競馬の祭典「JBC競走」が開催されます。これに合わせ、関係団体と協力して魅力ある施設づくり、ファンサービスの提供を推進し、集客を図ってまいります。

ゴルフ部門では、四場で連携し、コース管理の更なるレベルアップを図ってまいります。また、東京二場では、引き続き外部営業による誘客活動を強化し、顧客獲得に努めてまいります。なお、よみうりゴルフ倶楽部におきましては、本年7月に乗用カートの入替えを実施し、顧客サービスの向上を図ります。

遊園地部門では、お客様に安心して遊んでいただくことを最優先に、引き続き遊戯機等の安全対策を徹底してまいります。また、冬の風物詩であるイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」をさらに拡張し、より一層集客できるイベントとして定着を図っていくほか、引き続き旅行会社などと連携し、団体集客を強化してまいります。なお、遊園地エリア内に本年10月より屋内型の子供遊戯施設をオープンする予定です。

不動産事業におきましては、本年4月に京王よみうりランド駅前に寄宿舎「ドリーミー京王よみうりランド」がオープンし、運営会社へ賃貸を開始しております。また、引き続き所有地の有効活用を推進してまいります。サポートサービス事業におきましては、積極的に新たなビジネスチャンスを見つけてまいります。

今後とも当社グループは、国内でも特色のある総合レジャー・サービス事業会社として、永年に亘り培われたノウハウとブランドイメージに裏打ちされた様々な経営資源に基づき、持続的な企業価値の向上を目指し成長、進化していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント別の概況

総合レジャー事業

公営競技部門

川崎競馬は、前期比1日減の62日開催されました。電力供給の制約の下、節電対策を講じ、5月の開催よりナイター競馬として実施されました。正月開催では天候にも恵まれ多くの来場者で賑わったものの、2月の降雪の影響により開催が1日減少したことなどで、投票券総売上高は減少いたしました。また、南関東の他場開催（船橋・大井・浦和）の場外発売は、前期比7日増の199日の実施となりました。なお、12月から「ウインズ川崎」としてJRA（日本中央競馬会）の開催日に場外発売が開始され34日実施されました。「ウインズ川崎」オープンに備え、馬場内広場への子供用遊具の設置や駐輪場の増設を行いファンサービスに努めました。

船橋競馬は、前期比1日減の48日開催されました。地震の影響で場内全域に液状化現象や亀裂が発生しましたが、懸命の復旧作業により、ビッグレース「かしわ記念」が行われるゴールデンウィークの開催から震災復興支援競馬として再開いたしました。9月の「日本テレビ盃」開催日には、近隣商業施設とコラボレーションした親子で楽しめるイベント「おうまフェス2011～親子であそぼ。～」を開催し、好評を博しました。しかしながら、地方競馬の祭典「JBC競走」が実施された前期と比較すると、投票券総売上高は減少いたしました。また、他場開催（川崎・大井・浦和）の場外発売は、前期比6日増の209日の実施となりました。なお、7月よりスタンド用浄化槽撤去後の跡地を飲食店2店へ賃貸し、経営資源を有効活用いたしました。

船橋オートレースは、前期同様64日開催されました。5月にはGI「黒潮杯」、11月には7年振りにSG「日本選手権」が開催されました。また、7月には新人オートレーサーがデビューし、マスコミにも取り上げられ話題となりました。この結果、投票券総売上高は増加いたしました。なお、他場開催の場外発売は、前期比18日増の264日実施されました。

競輪場外車券売場「サテライト船橋」での発売は、前期比17日増の359日実施されました。近隣施設が震災の影響で開催を見送るなか、4月1日より発売を再開し多くのお客様で賑わいを見せました。9月には繁忙日対策として有料席を増設し、顧客ニーズに対応いたしました。また、12月に開設3周年記念イベント、3月にオートレース競走路を利用したイベント「ママチャリ4時間耐久レース」を実施し、「サテライト船橋」のPR活動に努めました。しかしながら、一人当たりの購買金額が落ち込んだことにより、投票券売上高は減少いたしました。

以上の結果、公営競技部門の売上高は、38億4千万円（前期比2.8%減）となりました。

ゴルフ部門

東京よみうりカントリークラブは、引き続きチャンピオンコースとしてのコース維持を行いました。施設面では、練習場の打席に人工芝を設置し好評を得ました。営業面では、積極的な外部営業を展開し多くのコンペを獲得したほか、震災復興支援としてチャリティーコンペを実施いたしました。更に、「プロアマ大会」などを実施し、会員のクラブライフの充実を図りました。この結果、入場者は増加いたしました。なお、12月に開催された「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は悪天候により3日目から中止となったものの、最終日はプレーオフまでもつれこみ大いに盛り上がりを見せました。

よみうりゴルフ倶楽部は、11月に開場50周年を迎え、記念事業として競技会を実施するなど、顧客サービスに努めました。また、外部営業や様々な自主コンペの開催に積極的に取り組み集客を図りました。更に、遊園地のイベント「はたるの宵」や「ジュエルミネーション」と連携したディナーイベントなどを実施し、好評を博しました。しかしながら、震災後の法人の利用自粛や冬期の降雪、低温などの影響により入場者は減少いたしました。

静岡よみうりカントリークラブは、インターネット予約を活用した受入れや自主コンペを実施したほか、予約の少ない日に大会を誘致し、集客に努めました。また、夏期は節電の影響による企業の土・日曜日操業により平日の入場者が増加したことに加え、土・日曜日に来場者減少の歯止め策を実施いたしました。この結果、入場者は増加いたしました。

千葉よみうりカントリークラブは、夏期の節電の影響による企業の土・日曜日操業対策として、土・日・祝日の割引料金企画「サマーミッション」を実施し、多くのお客様にご来場いただきました。また、大好評の来場者へのスクラッチカード配布イベント「けずってゴルフ」が引き続き集客に寄与いたしました。この結果、入場者は増加いたしました。

以上の結果、ゴルフ部門の売上高は、入場者は微増であったものの、一人当たりの単価が減少したことなどにより、28億7千6百万円（前期比1.9%減）となりました。

遊園地部門

遊園地部門の遊園地では、ゴールデンウィークに「ご当地グルメ」、6月に「ほたるの宵」、9月には「サンマ祭と東北うまいものフェア」を開催したほか、新たに当社オリジナルの捜査ゲームを実施し、集客に努めました。また、11月からは、前期よりも消費電力を削減し節電に配慮したイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」を、3月11日までの週末を中心に77日間開催いたしました。観光バスの誘客活動など団体集客の強化に取り組んだほか、人気グループ「ファンキーモンキーベイビーズ」を使ったテレビコマーシャルの効果などもあり多くのお客様で賑わいました。この結果、入園者は増加いたしました。

夏のプールWAⅠは、音楽・ダンス・放水を融合したイベント「ダンスブラッシュ」をはじめ、シンクロショーやオリジナルのおもちゃのアヒルを用いたレース大会など、連日イベントを開催したことによりエンターテイメントプールとしての評判が高まり大変な賑わいを見せました。また、プール水の放射線量の測定結果を公表することで安心・安全な営業に努めました。この結果、入場者は、休日の天候不順などが影響し、前期を下回ったものの、プールWAⅠ開場以来2番目の記録となりました。

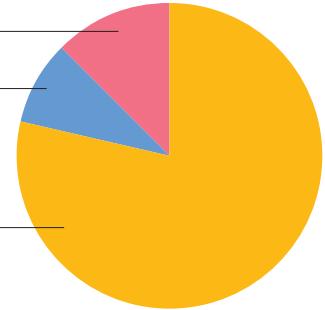
温浴施設「丘の湯」は、遊園地のイベントと連動した「ほたる観賞会」や野沢温泉スキー場と連携した「野沢温泉スキー場まつり」などを開催し、賑わいを見せました。3月には湯休み処の拡張や女性専用の寝転び座敷の新設など、大幅なリニューアルを実施いたしました。また、併設する複合施設「グリーンクラブ」についても、中華料理店「天安」の改装やベーカーリー「ポラリス」の新規出店などを機に「丘の湯プラザ」としてリニューアルオープンいたしました。これらの施策が好評を博し、集客に大きく貢献した結果、入場者は増加いたしました。温浴施設「季乃彩」はポイント2倍デーや朝風呂の実施など様々な顧客サービスに努めた結果、入場者は増加いたしました。

ゴルフガーデン（練習場）は、定休日である火曜日も月末を除き営業するなどして集客に努めましたが、震災後の4月に営業時間を短縮したことなどが影響し、入場者は減少いたしました。なお、よみうりV通りの60メートルの高低差を生かしたマラソン大会「よみうりランドVロードレース2011」を初開催し、多くのランナーが参加いたしました。

以上の結果、遊園地部門の売上高は、31億7千2百万円（前期比4.4%増）となりました。

販売部門

遊園地の「ご当地グルメ」や「ジュエルミネーション」の特設売店が好調であったことなどや入園者の増加に伴う増収、また「丘の湯プラザ」リニューアルに伴う増収などにより、販売部門の売上高は27億円（前期比1.3%増）となりました。



● 総合レジャー事業

総合レジャー事業全体の売上高は、その他の収入も含め、133億1千4百万円（前期比0.7%増）、営業利益は25億3千8百万円（同0.6%減）となりました。

売上高 **13,314** 百万円
構成比 **78.8%**

● 不動産事業

不動産事業の売上高は、販売用宅地の分譲が増加したことなどにより、14億9千5百万円（前期比7.5%増）となり、営業利益は8億7百万円（同3.1%増）となりました。

売上高 **1,495** 百万円
構成比 **8.8%**

● サポートサービス事業

サポートサービス事業の売上高は、前期に大口のジャイアンツ球場ナイター設備工事や船橋競馬場「JBC競走」関連工事の受注があったため、20億9千4百万円（前期比15.9%減）、営業利益は1億1千万円（同23.2%減）となりました。

売上高 **2,094** 百万円
構成比 **12.4%**

財務諸表〔連結〕

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当連結会計年度末 平成24年3月31日現在	前連結会計年度末 平成23年3月31日現在	比較増減		当連結会計年度末 平成24年3月31日現在	前連結会計年度末 平成23年3月31日現在	比較増減
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	7,629	7,472	157	流動負債	7,523	6,904	618
現金及び預金	6,166	6,195	△ 29	営業未払金	408	629	△ 220
受取手形及び売掛金	972	747	224	短期借入金	3,065	3,100	△ 35
商 品	31	25	6	1年内返済予定の長期借入金	1,526	1,207	319
販売用不動産	168	221	△ 53	未払法人税等	462	417	44
未成工事支出金	11	10	1	賞与引当金	116	119	△ 2
貯 蔵 品	13	12	0	災害損失引当金	—	103	△ 103
繰延税金資産	144	177	△ 33	そ の 他	1,943	1,327	615
そ の 他	123	81	41	固定負債	27,027	28,650	△ 1,623
貸倒引当金	△ 0	△ 0	△ 0	長期借入金	1,758	3,285	△ 1,526
固定資産	45,894	45,709	185	繰延税金負債	997	841	156
有形固定資産	36,946	37,681	△ 734	退職給付引当金	591	579	12
建物及び構築物	18,022	18,754	△ 732	役員退職慰労引当金	103	108	△ 4
機械装置及び運搬具	431	485	△ 53	資産除去債務	195	191	3
工具、器具及び備品	251	236	15	長期預り金	23,293	23,543	△ 249
土 地	17,884	17,876	8	そ の 他	87	101	△ 14
リース資産	82	97	△ 15	負債合計	34,550	35,555	△ 1,004
建設仮勘定	274	231	42	(純資産の部)			
無形固定資産	83	82	0	株主資本	17,501	16,791	710
そ の 他	83	82	0	資 本 金	6,053	6,053	—
投資その他の資産	8,864	7,945	919	資本剰余金	4,730	4,730	△ 0
投資有価証券	8,052	7,163	889	利益剰余金	8,478	7,620	858
繰延税金資産	575	583	△ 7	自 己 株 式	△ 1,760	△ 1,612	△ 147
そ の 他	235	198	37	その他の包括利益累計額	1,472	835	636
資産合計	53,524	53,181	342	その他有価証券評価差額金	1,472	835	636
				純資産合計	18,974	17,626	1,347
				負債及び純資産合計	53,524	53,181	342

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	比較増減
売上高	15,499	15,258	241
売上原価	11,900	11,652	247
売上総利益	3,599	3,606	△ 6
販売費及び一般管理費	1,592	1,627	△ 35
営業利益	2,007	1,978	28
営業外収益	239	238	1
受取利息	1	1	△ 0
受取配当金	173	173	△ 0
保険返戻金	5	13	△ 7
その他	59	49	9
営業外費用	80	101	△ 20
支払利息	80	99	△ 19
その他	0	1	△ 1
経常利益	2,166	2,115	50
特別利益	100	91	8
固定資産売却益	—	2	△ 2
受取補償金	100	89	10
特別損失	276	347	△ 71
固定資産除却損	206	140	66
災害による損失	17	119	△ 102
減損損失	52	—	52
資産除去債務会計基準 の適用に伴う影響額	—	87	△ 87
税金等調整前当期純利益	1,989	1,859	130
法人税、住民税及び事業税	792	733	59
法人税等調整額	△ 55	△ 49	△ 6
少数株主損益調整前当期純利益	1,253	1,175	77
当期純利益	1,253	1,175	77

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,859	3,518
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,090	△ 1,250
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,808	△ 2,028
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 39	239
現金及び現金同等物の期首残高	6,060	5,820
現金及び現金同等物の期末残高	6,020	6,060

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位：百万円)

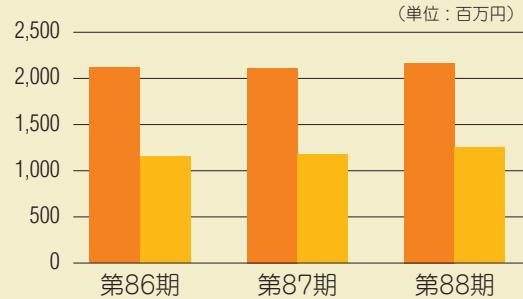
	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
当期首残高	6,053	4,730	7,620	△ 1,612	16,791
当期変動額					
剰余金の配当			△ 394		△ 394
当期純利益			1,253		1,253
自己株式の取得				△ 147	△ 147
自己株式の処分		△ 0		0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	—	△ 0	858	△ 147	710
当期末残高	6,053	4,730	8,478	△ 1,760	17,501
	その他の包括利益累計額			純資産 合計	
	その他 有価証券 評価差額金	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	835	835		17,626	
当期変動額					
剰余金の配当			△	394	
当期純利益				1,253	
自己株式の取得			△	147	
自己株式の処分				0	
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	636	636		636	
当期変動額合計	636	636		1,347	
当期末残高	1,472	1,472		18,974	

業績ハイライト[連結]

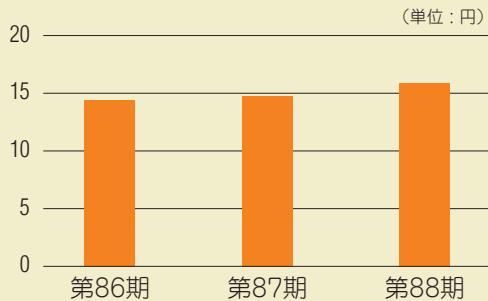
● 売上高



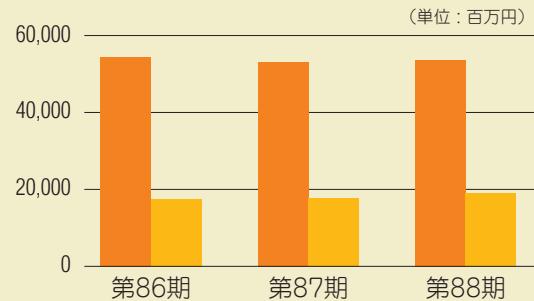
● 経常利益／当期純利益



● 1株当たり当期純利益



● 総資産／純資産



07

	第86期	第87期	第88期
	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高 (百万円)	14,546	15,258	15,499
経常利益 (百万円)	2,116	2,115	2,166
当期純利益 (百万円)	1,152	1,175	1,253
1株当たり当期純利益 (円)	14.41	14.72	15.91
総資産 (百万円)	54,408	53,181	53,524
純資産 (百万円)	17,557	17,626	18,974

トピックス

◆温浴施設「丘の湯」リニューアル、「丘の湯プラザ」オープン

「丘の湯」では、平成24年3月に湯休み処の拡張などのリニューアルを実施し、顧客満足度の向上を図りました。また、「丘の湯」に併設する複合施設「グリーンクラブ」におきましても、ベーカリー「ポラリス」の新規出店などを機に「丘の湯プラザ」としてリニューアルオープンいたしました。



▲拡張された「湯休み処」は18脚のリクライニングシートが新設されました



▲丘の湯プラザのベーカリー「ポラリス」のエントランス



▲丘の湯プラザ内にある中華料理レストラン「天安」は、すっきりとした洗練された風合いに仕上げました

◆遊園地トピックス

プールWA I は連日イベントを開催したことによりエンターテインメントプールとして評判が高まり大変な賑わいを見せました。入場者はプールWA I 開場以来2番目の記録となりました。

イルミネーションイベント「ジュエルミネーション」は人気グループ「ファンキーモンキーベイビーズ」を使ったテレビコマーシャルの効果などもあり多くのお客様で賑わいました。



▲多くのお客様で賑わうプールWA I



▲宝石色に輝くジュエリーロード

◆ウインズ川崎オープン

平成23年12月3日、川崎競馬場がJRAの場外馬券発売所であるウインズ川崎として営業を開始いたしました。



▲ウインズ川崎オープンに向け設置した子供用遊具

株主優待

当社では、権利確定日に株主名簿に記録されている株主様を対象として、株主ご優待を実施しております。

権利確定日	3月31日（期末）	9月30日（中間）
発行時期	6月	12月
有効期間	7～12月	1～6月

●招待内容

遊園地・プールWAI招待券綴	株主入場パス
1冊の内容	各場共通パス
★遊園地入園 5枚	☆川崎競馬場
★のりもの・アシカショー券引換 1枚 園内で「のりもの3回、アシカショー1回」がセットになったクーポン券5枚とお引き換えいたします。	☆船橋競馬場
★ゴンドラ乗車 2枚（10回分）	☆船橋オートレース場
★プールWAI入場 5枚（※期末発行分のみ）	

●発行基準

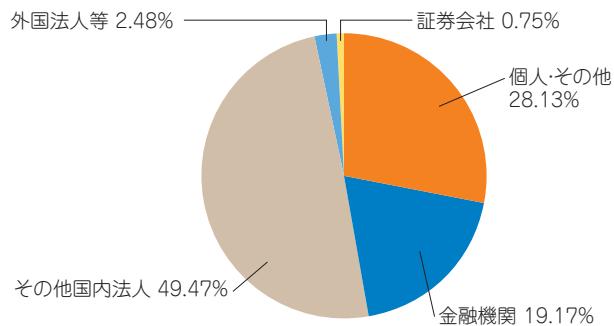
ご所有株数	遊園地・プールWAI招待券綴	株主入場パス
1,000株以上	1冊	2枚
5,000株以上	2冊	3枚
10,000株以上	3冊	5枚
50,000株以上	4冊	5枚

※各招待券は休園日等ご利用いただけない日がございます。注意事項と合わせて詳細につきましては、同封の「株主招待券贈呈のご案内」をご参照ください。

※プールWAI入場につきましては、期末発行分のみとなります。

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

- 発行可能株式総数…………… 294,196,000株
- 発行済株式総数……………78,403,601株
(自己株式5,118,423株を除く)
- 当期末株主数…………… 8,691名
- 所有者別株主比率



●大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社読売新聞グループ本社	12,508	15.95
日本テレビ放送網株式会社	11,242	14.33
株式会社東京ドーム	5,821	7.42
中央三井信託銀行株式会社	3,899	4.97
大成建設株式会社	2,852	3.63
株式会社読売巨人軍	2,014	2.56
京王電鉄株式会社	1,700	2.16
株式会社横浜銀行	1,631	2.08
第一生命保険株式会社	1,580	2.01
オリンピア興業株式会社	1,278	1.63

- (注) 1. 上記以外に当社所有の自己株式5,118千株があります。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
 3. 中央三井信託銀行株式会社は、平成24年4月1日をもって住友信託銀行株式会社及び中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、三井住友信託銀行株式会社となっております。

会社の概況

●会社の概要 (平成24年3月31日現在)

商号 株式会社よみうりランド
(英文: YOMIURI LAND CO., LTD.)
 本店所在地 東京都稲城市矢野口4015番地1
 設立 昭和24年9月24日
 資本金 6,053,030,806円
 企業集団の主要な事業内容 総合レジャー事業
 公営競技部門
 競馬、オートレース及び競輪の
 競技場等の施設運営
 ゴルフ部門
 ゴルフ場の経営
 遊園地部門
 遊園地、ゴルフ練習場、温浴施
 設等の経営
 販売部門
 食堂、売店及びコンビニエンス
 ストアの経営
 不動産事業
 不動産の売買、賃貸
 サポートサービス事業
 建設業、ゴルフ場管理、ビル管理等

●当社の従業員の状況 (平成24年3月31日現在)

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
185名	6名	40歳6ヶ月	12年5ヶ月

●役員 (平成24年6月21日現在)

代表取締役社長…………… 関 根 達 雄
 常務取締役…………… 小飯塚 稔
 常務取締役…………… 土方 功
 常務取締役…………… 谷 哲 夫
 取締役…………… 天野 正 明
 取締役…………… 小山 興 志
 取締役…………… 中保 章
 社外取締役…………… 渡邊 恒 雄
 社外取締役…………… 加藤 奂
 社外取締役…………… 細川 知 正
 常勤監査役…………… 小林 利 光
 社外監査役…………… 濱 邦 久
 社外監査役…………… 児 玉 幸 治
 社外監査役…………… 岡 田 明 重

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日

定時株主総会の議決権	毎年3月31日
期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。
- 公告の方法 電子公告により行います。なお、以下のホームページアドレスにてご覧いただけます。
<http://www.yomiuriland.co.jp/ir/index.html>
ただし、事故その他、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する読売新聞に掲載して行います。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

※確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株式会社 よみうりランド

この報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

● 総務部 電話 044-966-1131

● ホームページ <http://www.yomiuriland.co.jp/>